

# ほほえみ



桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号  
TEL:0277-44-7171(代) FAX:0277-44-7170  
URL: <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>



## 基本理念

命を育み、病を癒す、安心で最良の地域医療

## 基本方針

1. 私たちは、患者さんの命を守り、健康回復とその増進を責務とし、地域医療の充実と発展に努めます。
2. 私たちは、患者さん及びご家族の思いを受け止め、分かりやすい質の高い診療に努めます。
3. 私たちは、説明と同意を大切にするチーム医療の推進に努めます。
4. 私たちは、地域医療機関との良好な連携強化に努めます。
5. 私たちは、弛まぬ研鑽と実践的な研修に努めます。
6. 私たちは、今後も地域基幹病院として、医療施設や職場環境の整備、効率的で健全な病院経営に努めます。

# 年頭のご挨拶

院長 まる た さかえ 丸田 栄



新年あけましておめでとうございます。桐生市みどり市の皆さん、誰もが晴れ晴れしい穏やかな新春をお迎えのことと存じます。そして今年一年が干支の“午”にあやかっ、元気で勢いのある素晴らしい年でありますように、心から祈念しております。

昨年の桐生厚生総合病院は日々の診療を一つ一つ積み上げ、桐生・みどり両市民の皆さん方をはじめ、当医療地域内外の多くの方々健康を支え、その病を癒すことを病院の目指す方向と定め、患者さんを大切にした患者さんの健康回復を優先した診療に、一途にその実現を期して、出来る診療に専念して来ました。そして新たにお迎えできた先生方、各職種の人たちを含めた病院職員一同で頑張ってきました。その成果は、この医療圏でなすべき医療の質はより高く、かつより安心していただける信頼の医療を、多くの患者さん方に提供すべきと自らに課し、そして努力を重ね、実行できていたのではないかと、またそうした取り組みの過程で、職員一人一人がこれからも歩んできたこの道を、診療内容の充実に向けて、さらに進もうとの意欲的な姿勢へと発展してきたと思います。外に対しては、地域の多くの先生方と連携して、徐々にではありますが、シームレスな地域医療の形成に努めてきました。今までと同様に地域医療機関の先生方と緊密に情報交換を進め、病診一病病連携を強化して、地域完結型医療を共に進め、その大きな役割を支える基幹病院であり続けたいと考えます。

今後も患者さん・ご家族のため、地域の多くの方々をはじめ、医療関係者の方々など様々のご要望に応えられる身近な総合病院として地域医療を支え、そのために病院職員共々頼られる医療者としての自覚を持ち、自己研鑽を厭わず、日々新たな挑戦の気概をもって、一層の充実と発展に邁進いたす所存であります。

これからも変わらぬご理解とご支援をお願いして、新年のご挨拶とさせていただきます。

## 内視鏡的大腸ポリープ切除治療について

内科診療部長 いいだ 飯田 ともひろ 智広



消化器内視鏡というと、皆様が人間ドックや健康診断で受けて頂いている胃カメラが思い浮かぶでしょう。内視鏡(ビデオスコープ)は、数十年前に登場し目覚ましい進歩と変化をしております。現在胃カメラの他に大腸用の大腸内視鏡、小腸用の小腸バルーン内視鏡、カプセル内視鏡、胆膵鏡など臓器によって、専用の器具を使用して検査を行います。日本は、世界的にも内視鏡検査、治療は常に先頭を歩んでいます。

内視鏡治療といいましても胃や大腸の出血を来たす病変、例えば①潰瘍や癌からの出血、②肝臓疾患から来る食道静脈瘤破裂出血の止血、③胃や小腸、大腸の狭窄(腸が狭くなり、食べ物や便が通過しない状態)に対する拡張術、④胃、大腸のポリープ病変や早期胃・大腸がんの内科的切除治療など非常に多彩です。

今回全てをご紹介するのは難しいので、大腸内視鏡治療、大腸ポリープ切除治療及び粘膜切除治療についてお話ししたいと思います。特に最近では胃がんよりも大腸がんが急速に増加しております。従来は20mm前後の大きめのポリープや早期の大腸がんでも大腸手術(大腸切除)を行うことがありました。

現在は技術や機器の進歩があり、かなり大きいポリープや早期の大腸がんも大腸切除手術をせずに内科的に内視鏡で切除治療ができるようになっております。

大腸ポリープは、5mm以上のポリープは切除対象となります。大きさや形態にもよりますが、早期大腸がんやポリープでは、だいたい20mmまでの病変は内視鏡で治療が可能な場合が多いです。

検査では大腸の便を出来る限りきれいに洗浄する必要があります。専用の腸管洗腸剤(約2ℓ)を、飲むのは大変ですがしっかり服用して腸の便や残液をしっかり排便していただきます。

当院では、抗血栓薬(脳梗塞や心臓疾患で血液がさらさらとなり血が止まらなくする薬)を検査時に休みにできる患者さんで、入院可能な場合は大腸ポリープや早期大腸がんを検査と同時に治療、切除を行っています。通常はその日は食事を中止し1泊入院をお願いしています。大腸ポリープ病変の真下に内視鏡から専用の細い注射器(局注針)を刺入して、生理食塩水などを注入します。ポリープ病変を腸粘膜から浮かすようにしてからスネアという金属性のワイヤーを病変にひっかけて、締めながら電気メスで凝固すると切除できます。出血がないことを確認して終了となります。後日ポリープ病変の顕微鏡(病理組織)検査結果で、追加手術(大腸切除やリンパ節切除)が必要となることがあります。

当院では、年間約1300件の大腸内視鏡検査と約200件の大腸ポリープ切除(内視鏡治療)を行っています。大腸内視鏡検査は決して楽な検査ではありませんが、大腸がんが進行した状態で発見される患者さんが多いのも事実です。大腸がん検診と精密検査である大腸内視鏡検査を積極的にお勧めします。





## 新任医師と診療科の紹介「神経内科」

### 神経内科診療部長 おおつか 大塚 まこと 真

平成25年10月から当院に赴任いたしました神経内科の大塚と申します。桐生での勤務は、始めてとなります。外来を担当して感じるのは受診年齢層が前任地などと比べてやや上がったかな？ということでしょうか。必然的にももの忘れの相談割合が多くなったような気がしています。もの忘れ症状は高齢者をかかえるご家庭にとっては深刻な問題なのだろうと思われれます。

また頭痛で受診された患者さんに「頭痛なんかで話を聞いてもらえるのか心配だった」といわれた方がいたのも印象強く残っています。頭痛はありふれた症状である分、なかなか周囲の理解が得にくいということなのかもしれません。どちらの症状も多くの患者さんがいらっしゃる領域ですが、まだなかなか適切な医療的あるいは社会的対応がなされていないことを見聞きします。

この二つの症状に限らず神経内科という耳慣れない科が扱う疾患は、脳卒中など患者数の多い疾患が多く含まれ、それ以外にも筋萎縮性側索硬化症(ALS)や脊髄小脳変性症などの難病に関わる機会が多いのも特徴です。膨大な数になるであろう当科領域の患者さんに十分な医療を提供できる診療体制は整っているとはまだ言い難く、このことは桐生地域に限られたことではありません。しかし、あきらめていては何も変化はなく、急激な進歩は無理でも地道に日々の診療に取り組んでいくことが、将来の発展につなげていくために大切なかなと感じております。

微力ではありますが桐生地域の医療充実のために努めて参りたいと考えております。皆様方の益々のご指導ご鞭撻を賜りますよう心よりお願い申し上げます。



## 認定看護師の活躍

### 糖尿病看護認定看護師 かわさき 川崎 みちこ 美智子

現在群馬県には、9名の糖尿病看護認定看護師が在職しています。私は平成25年度の認定審査に合格し、東毛地区で初めての糖尿病看護認定看護師となりました。

糖尿病は、糖尿病神経障害、糖尿病網膜症、糖尿病腎症、などの合併症を発症させないように、血糖コントロールすることが重要です。

糖尿病看護認定看護師の活動は、糖尿病とともに生きる患者さんやご家族の支援を行い、できるだけその人らしさを失うことなく生活できるようにケアする事です。

糖尿病があるからと、「自分の生活が制限されてしまう」と考える患者さんも多くいるのが現状です。

そのため外来受診時は、自宅での生活をじっくり聞くことから取り組んでいます。その人らしさとは？を考える時、どのように日常生活を送られているのか、仕事は何をしているのか、食事は規則正しく食べられるのかなど、たくさんの情報を伺い、患者さん一人ひとりが、糖尿病と折り合いをつけながら生活できるように支援することと考え、日々努力をしています。

将来に起こる合併症の予防を視野に入れ、今のためだけではなく未来のためを考えて、患者さんの求める質の高い看護を追求し、熱い「看護のこころ」を持ってケアを実践しています。

糖尿病治療で重要となるのが食事療法です。食事療法というイメージが強いようです。「自分には出来ない」と考えてしまわれる方が多いと思いますが、長寿食または健康食であり決して難しい食事ではありません。好きなものを好きなだけ食べるのではなく、栄養バランスのいい食事をするのが大切です。適切な量を、ゆっくりよく噛んで食べることが基本になります。食事で分からない事は当院の栄養士にご相談ください。一人ひとりに合った食事内容で説明いたします。



# 第12回 市民公開講演

～がん医療と放射線治療の役割～

平成25年度 がん診療連携拠点病院機能強化事業

今回は、ご高名な先生方、東京女子医科大学 放射線腫瘍学講座 主任教授三橋紀夫先生、  
神奈川県立がんセンター 放射線腫瘍科部長 中山優子先生をお招きして、ご講演をいただきます。

**とき** 平成26年2月8日(土) 14:00～16:00(開場13:00)

**ところ** 公益財団法人 桐生地域地場産業振興センター 3階 第2ホール(約150名)

**参加費** 無料 参加自由 事前申し込み不要

※お車で越しの方は、桐生厚生総合病院駐車場または、桐生市市民文化会館立体駐車場をご利用ください。

## プログラム

司 会： の ぎき みわこ  
野 寄 美和子 先生 (獨協医科大学越谷病院放射線科教授)

はじめに： たか はし みつ ひろ  
高 橋 満 弘 先生 (桐生厚生総合病院放射線科部長)

「桐生厚生総合病院におけるがん治療の現状」

講 演 1： みつ はし のり お  
三 橋 紀 夫 先生 (東京女子医科大学放射線腫瘍学講座主任教授)

「わが国のがん医療と放射線治療の役割」

講 演 2： なか やま ゆう こ  
中 山 優 子 先生 (神奈川県立がんセンター 放射線腫瘍科部長)

「放射線治療の展望 -IMRT(強度変調放射線治療)-」

質疑応答

## 問い合わせ 桐生厚生総合病院

- 地域医療連携室 TEL 0277-44-7150 (問い合わせ時間：平日8:45～17:30)
- 相談支援センター TEL 0277-44-7165 (問い合わせ時間：平日9:00～16:00)

これまでの市民公開講演の資料が、当院ホームページ <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/> でご覧いただけます。

## 桐生地域医療組合議会

総務課

桐生厚生総合病院内には議会があります。桐生地域医療組合議会は、桐生市、みどり市によって医療事務を共同で行うために設置され、組合議会に議員が派遣(間接選挙)されています。間接選挙で選ばれた組合議員がその圏域を代表して組合議会を構成し、執行機関である病院側に対し民主的なチェックを行うため、意見などを述べ、事務の管理、執行を調査するなど市議会と同様に各種の権限を持っております。

本組合議員の定数は、規約で桐生市議会から選出された9人と、みどり市議会から選出された4人の13人と定められています。議長と副議長は、議員の中から選ばれ、議事の整理や議会の事務を処理し、組合議会を代表します。

最近の組合議会(平成25年10月25日開催)では、平成25年度桐生地域医療組合病院事業会計補正予算、平成24年度桐生地域医療組合病院事業決算の認定、監査委員の選任の3議案が審議され、それぞれ可決・認定・同意されました。

( 外来診療担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。 )